

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p><長期目標></p> <p>リンポポ州ベンベ郡における HIV 陽性者及びエイズに影響を受けている人々が心身ともに健康を維持することができ、HIV/エイズに対する差別・偏見が軽減され、HIV 感染拡大が抑えられる。</p> <p><プロジェクト目標></p> <p>リンポポ州ベンベ郡マカド地区 9 村において、HIV 陽性者が健康を維持していくためのサポート体制が向上するとともに、HIV 陽性者を含む地域住民が効果的な HIV 感染拡大予防活動に取り組むことができるようになる。</p>
(2) 事業内容	<p>(イ) 地域で患者をケアする在宅介護ボランティア (Home Based Care Volunteer、以下 HBCV) の育成</p> <p>①HBCV の能力向上のための研修 (HIV/エイズ治療に関する研修、救急法研修、カウンセリング法研修)、②他村、他 NGO の経験から学ぶための経験交流の実施 ※本活動二年目より、チルンザナニ HBC との活動を開始、以下の活動はいずれもチルンザナニ HBC と協働。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2015 年 2 月 9～13 日及び 3 月 16～20 日にエイズ治療法研修を HBCV22 名、SG メンバー 1 名を対象に実施。 ● 3 月 23～26 日、救急法レベル 2 研修を HBCV22 名を対象に実施。 ● 6 月 30～7 月 2 日、子どもの権利と虐待に関する研修を実施を HBCV22 名及び同地域の幼児施設ボランティア 1 名を対象に実施。 ● 7 月 9～10 日、HBCV に同行し、家庭訪問を実施。 <p>②の活動については、提携団体との活動が 2015 年 8 月時点で滞り実施に至らず。</p> <p>(ロ) ケアの必要な子どもの世話をするボランティア (Drop In Center Volunteer/Early Child Development Volunteer、以下 DICV/ECDV) の育成</p> <p>①DIC ボランティアの能力向上のための研修 (イと同様)、②子ども同士の経験交流、③子どものケアセンター (DIC) に対する、楽器や本などの教材提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ボドウェ村 DIC において 2015 年 5 月 15 日、ンジャカンジャカ村 DIC において 4 月 27 日に、保護者会を実施。それぞれ 24 名、59 名の保護者が参加した。 ● ボドウェ村 DIC において 6 月 16 日、ンジャカンジャカ村において 6 月 15 日にユースデーイベントを実施。それぞれ 37 名、8 名の青少年が参加した。 ● 子どもプログラム改善研修の一環として研修実施機関である Keep the Dream 196 (以下、KTD) が 5 月 20～21 日に初回訪問、6 月 26～28 日に導入ワークショップを実施 (DICV22 名参加) した。 ● 8 月 17～21 日に子どもプログラム改善研修を実施し、DICV18 名が参加した。その後、8～11 月にかけて月一で KTD がメンターとして活動地の DIC3 センターをモニタリングした。 ● 7 月 13～14 日、ボドウェ村 DIC 理事会メンバー 5 名を対象にガバナンス研修を実施した。 ● 7 月 16～17 日、DICV23 名を対象に人権に関する研修を実施した。 ● 11 月 23 日、KTD 活動地域を DICV23 名が経験交流の一環として訪問した。 ● 11 月 24～26 日、ボドウェ村 DIC に通う 14 歳以上の子どもたち 24 名を対象に HIV 予報啓発講座を実施した。 ● 11 月 24～27 日、ボドウェ村 DIC、ヒャンガナニ村 DIC において子どもたちの交流を目的としたキャンプを実施、それぞれ 39 名、15 名が参加した。 ● 2015 年 1～7 月まで毎月月例で DIC との会合を実施、8 月移行は KTD の

月次訪問に合わせて会合を継続した。

(ハ)HBCV および DICV による予防啓発活動の強化

(イ)(ロ)の研修成果を生かし、予防啓発を実施する。

- ボドウェ村において 2015 年 4 月 23 日、ンジャカンジャカ村において 4 月 14 日と 5 月 8 日に同地域内に学校にて HIV 予防啓発の内容を含む特別授業を DICV が受け持った。ボドウェ村では参加者は中学 1～3 年生 3 教室約 180 名、ンジャカンジャカ村では小学校中学年 2 教室約 100 名を対象とした。
- 6 月 20 日、ヒャンガナニ村において外国人排斥反対キャンペーンを実施、DIC に通う子供たちが詩などを披露し、住民役 80 名が参加した。
- 2015 年 6 月 11 日、24 日にチルンザナニ HBC による HIV 予防啓発キャンペーンを実施。いずれも 76 名、95 名が参加。6 月 11 日実施分については、その場で 60 名が HIV 検査を受けた。
- HBCV は日々の家庭訪問の中で患者及び地域住民に母子感染予防などの予防啓発を実施。
- DICV は日々の活動の中で、子どもたちにセーフセックスなど HIV 予防についての話し合いなどの機会を設けた。

(ニ)HIV 陽性者自身によるケアの質の向上と予防啓発活動の促進

① HIV 陽性者が自身をケアできるようになるための研修、②経験交流

- 2015 年 2 月 9～13 日及び 3 月 16～20 日に HBCV を対象としたエイズ治療法研修に参加した HIV 陽性者サポートグループ(以下、SG)代表が中心となり、3 月 21 日に啓発キャンペーンを実施。住民約 180 名が参加、うち 70 名がその場で HIV 検査を受けた。
- 2015 年 5 月 10～11 日、9 月 29～30 日にエイズ治療法研修を実施。初回は SG メンバー 11 名とその他 5 名が参加。二回目は初回に参加した 11 名 SG メンバーのうち 9 名及び SG から新規参加者 4 名、その他 3 名が参加した。

(ホ)生活改善のための家庭菜園づくり

① 家庭菜園づくり研修、②技術定着のためのモニタリング、③経験交流

- 2015 年 3～4 月の間に菜園ファシリテーター 6 名による菜園研修がそれぞれ 1 回ずつ実施され、46 名が研修に参加した。
- 2015 年 4 月及び 8 月に 4 回、フィアボム村で JVC による家庭菜園研修が行われ、80 名が参加。その後のモニタリングを継続し、42 名が菜園を継続している。
- 2015 年 5 月 30 日～6 月 7 日にかけて、9 名が経験交流の一環として JVC 以前の自然農法活動地である東ケーブ州カラ地域を訪問した。
- 7 月 9、10、15、17 日にボドウェ村 DIC に通う子どもたちの 6 世帯において、子どもとその家族を対象に菜園研修を実施した。
- 7 月 14 日、フィアボム村の菜園活動に参加するもの 4 名がボドウェ村の菜園ファシリテーターの活動を訪問した。
- 7 月 20～24 日、10 月 10～23 日、菜園ファシリテーター 6 名(10 月時点 5 名)及びフィアボム村ファシリテーター候補 4 名(10 月時点 3 名)を対象に TOT 研修を実施した。
- 11 月 23～27 日、ボドウェ村において専門家の主催で他地域の農民との交流会を実施、菜園ファシリテーター 5 名及びフィアボム村ファシリテーター候補 3 名が参加した。

<p>(3)達成された成果</p>	<p>ここでは、総評のみを記載、「期待される成果とその指標(申請書別紙2)」の事業3年目の指標に対するコメントは、添付別紙を参照。</p> <p>(イ) HIV 陽性者やエイズの影響を受ける人びとが地域で適切にケアされるようになる。</p> <p>活動開始当初現地事業提携団体 LMCC については、一年次に実施した研修の成果が日々の訪問介護活動に生かされほぼ全員の HBCV が患者に適切にアドバイスをできるようになっていることが二年次の振り返り(家庭訪問同行)時点で確認されている。</p> <p>本事業二年次(2014 年 4 月)から活動を開始した提携団体のチルンザナニ HBC については、予定通り研修を実施したが、LMCC 同様 2015 年 8 月末時点で協働が停止したため、家庭訪問の同行などによる成果の確認が継続的に行えなかったものの、研修後に LMCC 同様の变化・成果の事例が複数報告されている。</p> <p>(ロ) エイズの影響を受ける子どもが地域で適切にケアされるようになる。</p> <p>様々な研修での学びを活かし DICV のケアの質が改善したことにより、地域のステークホルダーや住民(とくに子どもの保護者ら)、子どもたち自身が DICV を信頼し、相談を持ち掛けてくるようになり、DIC が地域内の子どもケアと問題の解決にあたって重要な役割を果たすようになった。</p> <p>1~2 年目に課題となっていた DIC における日々のプログラムに関しても年齢に合わせたアクティビティを提供できるようになってきており、定期的に通ってくる子どもたちの数が増加、安定している。</p> <p>一方で、活動開始当初 3 地域 3 センターが協力してお互いを支えあっていくことを想定していたが、南ア政府の政策変更により、母体であった LMCC が解体、3 地域 4 センターに再編され、それぞれが独立して活動するようになった。うち 2 地域 2 センターではほぼ目標が達成され、子どもたち自らの自主的な活動の芽も育ち始めており、活動が事業の成果が持続されていくことが望まれる。他 2 センターについては、リーダーシップの欠如、ボランティア間のコンフリクトなどが原因で、一部指標のみの達成に留まった。各 DIC のボランティアは日常的に電話をかけて相談し合うなど、協力、サポート体制は構築されている。</p> <p>(ハ) HBCV、DICV による予防啓発活動が強化される。</p> <p>HBCV、DICV ともに研修を経て、予防啓発活動を効果的に実施するにあたり必要となるエイズ治療の基礎的な知識を得ることができた。また、地域住民や主要なステークホルダーに HBCV、DICV ともに頼られる存在になってきていることは今後の活動を持続していく上で大きな変化と言える。</p> <p>HBCV については日々の訪問介護の際に以前より詳細で正確な情報(例:母子感染予防、結核の治療法など)提供している事例が LMCC 及びチルンザナニ HBC の活動評価から報告されている。一方でいずれも協働活動を中断せざるを得なかったことから、とくにチルンザナニ HBC についてはその後の継続について確認できておらず、一部指標についての達成に留まった。</p> <p>DICV については、DIC の活動内、近隣の学校における特別授業、保護者への啓発など、以前に比べて予防啓発活動が活発になっている。一方、活動村のひとつである中高一貫校で過去一年間に 20 名の女生徒の妊娠が確認されており、行動変容にいたるまでの道のりは長く、課題が残されている。</p> <p>(ニ) HIV 陽性者自身によるケアの質が向上するとともに HIV 陽性者自身が地域で予防啓発活動を実施できるようになる。</p> <p>SG の活動については、活動開始当初の現地協働団体の活動内容の変更、その後の提携停止などの影響で、着手が三年目からとなった。SG メンバー対象としたエイズ治療研修が実施されたのは、2015 年 5、9 月で、最終評価時点ではその成果を評価するには時期尚早と判断される。しかしながら、参加者が ARV の適切な服薬の意義を理解し、定期的に服薬するようになったことで健康状態の改善事例や、その後周囲に HIV に関する情報を共有した事例が複数報告されている。新たに検査を進めたことで ARV を飲み始めた人もおり、当事者による予防・啓発のきざしが見られ始めてはいる。</p>
-------------------	--

	<p>(ホ) 家庭菜園によって栄養／生活状況が改善される。</p> <p>菜園ファシリテーターが中心となり地域内での家庭菜園研修を実施してきた。研修生のうち 78% がその後のモニタリングでなんらか菜園を継続していることが確認されている。とくに、育成に力を入れてきた菜園ファシリテーター 6 名については野菜に自給を 100% 達成しており、自給できることの喜びや家計に与える影響などについて明確に伝えることができるようになってきていることから、今後彼らがモデルとなり地域内で菜園活動が継続されていくことが期待できる。</p>
(4) 持続発展性	<p>(イ) 地域で患者をケアする在宅介護ボランティア (Home Based Care Volunteer、以下 HBCV) の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業提携団体の HBC 活動は今後も継続される。日々の訪問介護活動の中で知識、スキルが使われていくことでその成果が持続される。 南アフリカ政府の政策変更により、今まで NGO が運営する HBC が担ってきた訪問介護の役割の一部が、政府保健局の職員となるコミュニティ・ヘルス・ワーカー (CHW) に移行しつつある。CHW は既存の HBCV から選ばれることもあり、引き続き HBCV のスキル向上を図ることで地域内の医療、HIV ケアの質向上に寄与されることが期待される。 <p>(ロ) ケアの必要な子どもの世話をするボランティアの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業開始当初は LMCC の傘下で 3 地域、DIC3 センターが運営されていたが、LMCC 解体に伴い、それぞれ独立し 3 地域 4 センターとなった。そのうち 3 地域 3 センターについては、新規に NPO 登録を行い活動を継続させていく計画を持っている。本事業で実施してきた能力強化の成果や、強化してきた他団体とのつながり、地域内のステークホルダーとの協力などに後押しされ、活動が母体団体解体後も活動が持続されていく可能性が高い。 一方で DIC はもともと社会開発局の政策の一環として、DIC にボランティアへの手当てを含む運営費が支給されていた。本事業でも事業期間の 3 年の間に社会開発局からの資金を確保することを提携団体とも話し合っていた。しかし、政策の転換、予算の制限に伴い、DIC への資金拠出は今後期待できず、各 DIC が NPO として独自に資金調達をする能力をつけるまで、ボランティアたちは無給で活動を継続するしかなく、この点において家庭環境や社会状況の変化により、活動の持続性が確保できない恐れもある。 <p>(ハ) HBCV や DICV による予防啓発活動の強化 (改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> HBCV は日々の家庭訪問の中で、DICV は子どもたちとの活動の中で予防啓発活動を実施していることが確認されており、彼らの活動が続く限り継続して実施されていく。 また、HBCV、DICV に学校や保護者、患者自身など地域のステークホルダーが情報を求める事例も報告されており、本事業を通して地域内で彼らの活動が認知されはじめている。地域内で認知されることにより、地域内で彼らの活動が定着、拡充していくことが期待できる。 <p>(ニ) HIV 陽性者自身によるケアの質が向上するとともに HIV 陽性者自身が地域で予防啓発活動を実施できるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> SG 活動については、活動開始が三年次に入ってからであったことから、持続性を図るには時期尚早であり、判断できない。 <p>(ホ) 生活改善のための家庭菜園づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> LMCC 活動地域については、一年目から育成を行ってきた菜園ファシリテーターがモデル菜園を維持し、多種の作物を年間を通して自給するまでに至っており、彼らの今後の活動目標として地域に菜園を広げていくことが掲げられていることから、菜園により生活改善の効果が波及、持続されていくことが期待できる。 チルンザナニ HBC 活動地域については、活動開始が二年次後半であったことから、持続性を図るには時期尚早であり、判断できないが、20～30 代の若い世代を中心に、LMCC のファシリテーターのように他人に教えらるほど実践状況がいい研修生が 6 名出てきており、今後の継続が期待される。